

放課後体験プログラム

第1回 1月26日

- ・参加者の気持ちを大切にす。
- ・個人作業と全体での活動を組み合わせる。(交互に)

展開

1. 何故、ここにいるのか? どんな思いでここにいるのか? (カードワーク)
2. 今日からのチーム活動で大切にしたいこと (変形カードワーク: 風船に書く)
3. 「みんなが大切にしたいこと」を大切にする (全体活動、課題解決型ゲーム)
4. ふりかえりとわからあい

第2回 2月2日

- ・普段教室に入っている児童だけの参加の場合、秩序の構築をめざす。
(教室に入れない児童については心の緊張を解き、安心安全を確保することが先決)
- ・個人やチームを落とす言動についてきちんと指導する。
- ・協同することでより多様なアイデアを出すワークをする。
- ・「聴く」「伝える」ことを意識したグループ活動をする。
- ・ふり返りによるメンバーの承認活動をする。
- ・(はじめと終わりの) けじめはつけ、適度な緊張感のある活動にする。

展開

1. 「死ね」という発言について指導
《理科室移動》自由に座る。→2~5人の8グループ(男子3、女子5)になる。
2. できるだけたくさんイメージする活動。(個人作業→グループ活動)
3. なぞの宝島 (GWT(グループワークトレーニング)財: 情報カード型の課題解決ゲーム)

第3回 2月9日

- ・普段教室に入っている児童だけの参加の場合、秩序の構築をめざす。
(教室に入れない児童については心の緊張を解き、安心安全を確保することが先決)
- ・スノーキャンプ直前のため、体を動かす課題解決型のゲームにより、連帯感・達成感を育む。
- ・4グループに分かれて活動する。(スノーキャンプで雪洞を4つ作る予定のため)
- ・(はじめと終わりの) けじめはつけ、適度な緊張感のある活動にする。

展開

1. PA(:プロジェクトベンチャー)課題解決型ゲーム (パイプライン)

《この間、スノーキャンプ実施》

第4回 2月16日

- ・スノーキャンプでもチームを落とすような発言や仲間を排除するような言動が見られた上、自分自身を卑下（否定）する発言も聞かれた。まずは自己肯定感を高める必要がある。
- ・中には万能感を抱いている子どももあるかもしれない。バランスが大切。
- ・ただ本気で自分自身を全面否定している児童は少ないと思われるし、本気で自分の長所短所を認識していないようにも思えるため、短所を吐き出しつつ、それを長所に言いかえる取り組みを試みる。

展開

1. オセロ紹介（欠点をプラス（長所）に変える）カードワーク

第5回 2月23日

- ・一生懸命やってもエラー（失敗）する体験をするとともに、その失敗を笑える自分と仲間関係をつくることをめざした活動をする。
- ・課題解決型の協力ゲーム（コミュニケーションを活発にする活動）をする。

展開

1. ファシリテーターとのかかわりの中での失敗体験（後出しじゃんけんなど）
 2. 仲間とのかかわりの中での失敗体験（前後右左）
 3. 仲間との関わりの中での課題解決型の活動（ヒューマンノット(人間知恵の輪)
 4. 仲間との関わりの中でのバカバカしい体験（PA「ぐるぐる・ペア・タグ」など）
- ・基本的にまだまだ緊張の緩和（存在そのもの、いても良いということを実感させること）が必要なのではないか。

第6回 3月1日

簡単な課題解決型の協力ゲーム（コミュニケーションを活発にする活動）をする。

展開

1. キャッチ（アイスブレイキング）
2. PA課題解決型ゲーム「シークレット・コード」「キーパンチ」
3. ふりかえりとわかちあい



PA（：プロジェクトアドベンチャー）課題解決型ゲーム（パイプライン）

小学校 6年生 ワンデイキャンプ

1 ねらい

地域の「ひと・もの」などの教育力の導入や実際にふれてみる体験活動を行うことによって、児童の生きる力を養い、心豊かでたくましい児童の育成を図る。

スノーキャンプに向けて、調理の基本的なスキル（ロケットストーブの使い方）を理解するとともに、スノーキャンプへの期待感を高める。

雪洞を作って宿泊するという大きな課題解決プログラムを展開する前段として、課題解決型の擬似体験プログラムを体験する。

2 育てたい能力

○体験活動による創造性や独創性。

○児童自らの知的好奇心や探究心、また、科学的なものの見方や考え方。

○豊かな情操。

○協力して課題を解決する態度・スキル。

3 期日

1月29日（日） 9：00～12：30

4 場所

小学校 校庭（雨天時は体育館）

5 スケジュール

1月28日（日）	
9：00	小学校 集合
9：00～	ガイダンス
9：20～	擬似体験プログラム
10：30～	昼食づくり
12：00～	昼食
14：00	解散

6 参加者

小学校6年生 31名 6年生保護者 約30名

ワンデイキャンプ児童の感想

体験活動による創造性や独創性

- ・ぐるぐるパンづくりは初めての経験でうまくできるか心配でした。でも、やってみると意外に楽しくて、おいしく作れました。2回目は、パンにどううまく焼き色をつけるかに興味を持ってやりました。
- ・スープづくりではじめはどうやっていいのかも分からずに適当に材料を選んで適当に切って鍋に入れました。調味料も塩だけで、食べられるかどうか不安でした。だけど、味を調節して食べてみるとおいしくて驚きました。分からなくても何とかなるんだなと思いました。

児童自らの知的好奇心や探究心、また、科学的なものの見方や考え方

- ・家の中じゃなく、自然の中で電気を使わずに食べ物が作れるということを知りました。
- ・野菜や肉を切って鍋に入れるという作業は初めてだったので、やりごたえがありました。

豊かな情操

- ・日曜日はすごく楽しかったです。とくにスープ作り。塩だけでつくるなんて無理だと思っていました。だけど、野菜と肉とウインナーが味をだしてくれました。だからすごくおいしくなりました。スノーキャンプの時、もっとおいしい料理を作りたいです。
- ・竹につけたパンがとても大きくなるのでびっくりしました。

協力して課題を解決する態度・スキル

- ・上手に火をおこせるか不安でした。でも、ちひろちゃんのお母さんがいろいろ教えてくださって火をおこせるようになりました。
- ・この活動は、スープの材料をみんなで分けあったり、パンの生地をみんなで仲良く使ったりして、とても「絆」が深まるような活動でした。これからも、みんなでいろいろな行事をしていきたいです。
- ・この活動でみんなが協力すればご飯をつくることや火をおこすことができることが分かりました。



プログラムの目的共有のための保護者会



互いに教え合っのぐるぐるパン作り



4つの班に分かれてのぐるぐるパン作り



パンを焼きながら会話が弾む



保護者同士の親睦の場

小学校 6年生 スノーキャンプ

1 ねらい

地域の「ひと・もの」などの教育力の導入や実際にふれてみる体験活動を行うことによって、児童の生きる力を養い、心豊かでたくましい児童の育成を図る。

2 育てたい能力

- 達成感・成就感・連帯感・他者への信頼感。
- 体験活動による創造性や独創性。
- ものづくりを支える基礎的・基本的な技術と、児童自らの知的好奇心や探究心、また、科学的なものの見方や考え方。
- 豊かな情操。
- 何事にも前向きにひたむきに取り組む大切さを感じ、自分のこれからの生き方に反映させる態度。

3 期日

2月12日（日）～2月13日（月）

※2月14日（火）は2月12日（日）の振替休業日

4 場所

吉田グリーンシャワーの森

5 スケジュール（スケジュールは気象条件、活動状況等によって変更します）

2月12日（日） 1日目	2月13日（月） 2日目
:00 小学校 出発	6:30 起床
9:40 吉田グリーンシャワーの森到着	6:30～ 身辺整理・朝食準備
10:00～ ガイダンス	8:00～ 朝食（ご飯、スープ）
10:20～ 雪洞づくり	9:00～ 雪洞解体
昼食づくり	11:40 吉田グリーンシャワーの森出発
昼食（ご飯、スープ）	12:20 小学校 着
夕食づくり	給食
夕食（ご飯、スープ）	解散
18:00～ 自由時間	
就寝	

5 輸送方法

児童・・・バス

2月12日(日)9:00 小学校発 2月13日(月)12:20 小学校着

6 服装

- ・スキーウェアまたはスキーウェアに代わるジャンパーなどの防寒着(上下)
- ・長靴 ・手袋 ※いずれも防水加工があるものが望ましい

7 携行品

品名	数	コメント	
下着 上下	→	日数分+予備1枚(綿のものは出来るだけ避ける)	必要
靴下	2~3	薄手のものは、2枚重ねで仕様。ウール製が望ましい。	必要
ハンカチ	2		必要
タオル	3	洗面用1。湯たんぽペットボトル用1。予備1。	必要
洗面用具	1	はみがき・歯ブラシ。	必要
食器	→	プラスチック製かアルミの軽くて割れないものが望ましい。 ご飯用1。汁用1。コップ1。はし1。 (予備の食器は学校で準備します)	必要
お米	2合	「はがま」で炊きます。	必要
ビニール袋(レジ袋)	1~2	靴をいれたり、濡れたものを入れる。	必要
洗濯バサミ	4	手袋 キャップを乾すのに便利。	必要
常備薬		いつも使っているものがあれば。	必要に応じて
ティッシュ	2~3	ポケットティッシュをいくつか。	必要
ペットボトル	1	・500mlまたは350mlペットボトルの容器(湯たんぽとして使用するため、お湯を入れても耐えられるもの)	必要
おやつ	適量	飴など、適宜糖分を摂取できるもの。	必要に応じて
懐中電灯	1	夜間に使用。	必要
シュラフ(寝袋)		ある人。	

綿製の下着や靴下、手袋は、吸水性はよいですが、揮発性には乏しい性質があります。出来るだけ綿以外のものの使用をお勧めします。綿以外の下着等をお持ちでない場合は、替えの下着等を多めに準備してください。

手袋は、2枚以上あるとよいのですが、無い場合は2枚重ねで使用し、下の手袋を変えることをお勧めします。

8 経費

- ・食費として 1500 円程度
*後日清算し、請求させていただきます。

9 スタッフ

- ・保護者 有志
- ・しまね自然の学校
- ・教育委員会
- ・小学校

10 その他の準備物

- ・シュラフ（寝袋）1人2枚・・・教育委員会
- ・マット・・・・・・・・・・教育委員会
- ・食材・・・・・・・・・・教育委員会
- ・スノーダンプ・・・・・・・・教育委員会
- ・薪などの燃料・・・・・・・・教育委員会
- ・食器の予備・・・・・・・・小学校
- ・ロケットストーブ・・・しまね自然の学校
- ・焚き火台 5・・・・・・・・教育委員会
- ・雪洞用扉・・・・・・・・しまね自然の学校、教育委員会
- ・その他必要なもの・・・スタッフ

11 その他

- ・緊急避難場所として吉田グリーンシャワーを準備しています。
- ・当日、雪がない場合はプログラムの変更もあります。
- ・インフルエンザ流行など、プログラム実施ができない状態が発生した場合は中止します。
- ・緊急時はメール配信システム、電話等で連絡いたします。
- ・プログラムデザインは「しまね自然の学校」で行います。

○保護者のプログラム参加について

保護者の方にも積極的にプログラムに参加していただきたいと考えています。

下の申込書にお書き頂き、2月6日（月）までに担任まで提出してください。

-----キリトリ-----

参加できる時間帯に○をしてください。時間限定で参加される方は、直接参加される時間をお書き下さい。

保護者氏名	11日 午前	11日 午後	11日夜（宿泊）	12日午前

必要な数をお書き下さい → 11日昼食（ ） 11日夕食（ ） 12日朝食（ ）

*スノーキャンプに向けて、子どもたちが考えたチャレンジ目標

- ・みんなで協力してがんばる。
- ・チームワークを大切にする。
- ・何でも積極的に行動する。
- ・みんなで丈夫な雪洞を造る。
- ・みんなで力を合わせて達成する。
- ・みんなでアイデアを出してがんばる。
- ・とにかく楽しむ。その中でルールとマナーを守る。
- ・最後まであきらめない。

*活動の様子



*自己評価(自分は何をがんばったか。チームにどんな貢献をしたか。)

- ・みんなで協力し、まわりを見て行動することができた。
- ・雪洞づくり、夕食作りをがんばった。みんなで協力して大きな雪洞ができた。泣いたりもしたけどよかった。
- ・めあてどおり、積極的に行動することができました。きちんと造らないと命に関わることなので、集中して造れてよかったです。
- ・外は寒くて手が冷たかったけど、あきらめないでがんばった。初めて雪洞を造ったので、分からないことがたくさんあったけど、まわりの友達や保護者の人に聞いて、雪を運んだり、のせたりしてがんばった。
- ・みんなで力を合わせて達成できたことが一番よかった。

*感想

雪洞づくりは初めての体験でした。手も足も冷たくなって、足も痛かったけど、完成したときはうれしかったです。

夜は寒かったけど、カイロをはったり、ジャンパーを着たりすると暖かかったです。また、なかなか眠れませんでした。

雪洞解体は力が必要だったけど、楽しかったです。

いつもと違う環境で、寒くて、雪があって、疲れたけど、いい経験になりました。



私は雪洞を一回も造ったことがなかったので不安でした。

最初は雪を運ぶ作業が大変でした。

でも、みんなで役割分担すると、少し楽になったので良かった+です。

完成した時は、すごくうれしかったです。

みんなで協力することでがんばれました。

壊す時は悲しかったけど、貴重な体験ができてよかったです。



最初は「本当に大きな雪洞を造れるのかな？」と思ったけど、みんなで協力して無事に雪洞を作れてよかったし、「協力すれば、何でも出来る！！」ということが分かって良かったです。

私は家で「かまくら」は造ったことあるけど、「雪洞」という大きな「かまくら」は初めて造りました。もちろん寝るのも初めてでした。

最初は、寒いのかな、そんなに大きいのできるかなと不安もありました。でも実際にやってみると、寝るときは少し寒かったけど、雪洞を造っているときは暑かったです。

雪洞はみんなで協力するとこんなに大きいのが造れるんだと、チームワークはすごいなと思いました。

このスノーキャンプはすごく楽しかったです。

楽しく出来たのは、岡野さんや先生方、保護者の方、スタッフの方のおかげなので感謝したいと思いました。



とにかく無事に終わったということが良かったと思いました。このスノーキャンプでは、みんなで雪洞づくり、食事作りをし、「チームワーク」、「団結」、「まとまる」、「一つになる」といった言葉を使うことがたくさんありました。

スノーキャンプは成功だったと思いました。

一学期は落ち着いて勉強せず、バラバラだったのが、三学期はこんなにまとまることができたのです。

卒業まで、そして中学校に行っても頑張っていきたいと思いました。

